

1. 構造名：

イソシアヌレートフォーム裏張鋼板・せっこうボード表張／軽量鉄骨下地外壁

2. 仕様の寸法：

仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法

項 目	仕 様
壁の高さ	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
壁厚	33(±2.5)mm 以上*
胴縁間隔	610mm 以下

*胴縁を除く厚さ

3. 仕様の主構成材料：
仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項目	仕様
胴縁	材料：①又は② ①一般構造用軽量形鋼(JIS G 3350) 断面寸法：□-100×50×20×1.6mm以上 ②一般構造用角形鋼管(JIS G 3466) 断面寸法：□-100×50×1.6mm以上 配置：外装材鉛直目地部；2列配置、又は□-100×100×1.6mm以上1列配置 外装材一般部；1列配置 取付間隔：610mm 以下
外装材	材料：イソシアヌレートフォーム裏張鋼板 構成：①、②及び③ ①表面材 材料：1)～19)の一 1)塗装/亜鉛めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697) 2)熔融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3302) 3)塗装熔融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3312) 4)熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3317) 5)塗装熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3318) 6)熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 7)塗装熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) 8)ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く) 9)一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 10)冷間圧延鋼板(JIS G 3141) 11)熱間圧延軟鋼板(JIS G 3131) 12)電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313) 13)建築構造用熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069、0070、0362、0395) 14)熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) 15)ポリエチレン被覆熔融亜鉛めっき鋼板 母材：a)～l)の一 a)塗装/亜鉛めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697) b)熔融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3302) c)熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3317) d)熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) e)ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く) f)一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) g)冷間圧延鋼板(JIS G 3141) h)熱間圧延軟鋼板(JIS G 3131) i)電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313) j)建築構造用熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069、0070、0362、0395) k)熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) l)熔融アルミニウムめっき鋼板(JIS G 3314)

つづく

つづき

外装材	<p>16) 溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) 17) 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) 18) 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) 19) 塗装ステンレス鋼板 (JIS G 3320) 17)～19)の鋼種： フェライト系及びマルテンサイト系に限る</p> <p>塗装又は被覆の有機質量： 表面側；65(+7)g/m²以下 裏面側；26(+3)g/m²以下</p> <p>塗装の材質：1)～7)の一、又はその組み合わせ</p> <ol style="list-style-type: none">1) ポリエステル系樹脂2) フッ素系樹脂3) ウレタン系樹脂4) エポキシ系樹脂5) ポリ塩化ビニル系樹脂6) ポリエチレン系樹脂7) アクリル系樹脂 <p>厚さ：0.27(-0.05)mm以上</p> <p>② 芯材 材料：イソシアヌレートフォーム 原料組成(質量%)： ポリイソシアネート (ポリメリックMDI) 61(±6) ポリエステル系ポリオール 27(±4) 難燃剤(りん酸エステル) 5(±2) 添加剤(三量化触媒、整泡剤等) 7(±3) (*添加剤の割合が0となる仕様は含まない) 発泡剤(HFO) 11(±3) (外割)</p> <p>厚さ：一般部；17.5(±2)mm 凹深さ；3mm以下又はなし</p> <p>密度：36(±4)kg/m³ イソシアネート指数：367</p> <p>③ 裏面材 材料：1)又は2) 1) はり合せアルミニウムはく 厚さ：0.2(-0.1)mm以上 2) ①表面材と同じ 厚さ：0.16(-0.04)mm以上</p> <p>有機質量：87.3(±9)g/m²以下</p> <p>表面の形状：平板又はエンボス 厚さ：一般部；18(-2)mm以上 凹深さ；3mm以下又はなし</p> <p>断面欠損率：8.7%以下 幅：423(±10)mm 働き幅：385(±10)mm 張り方：横張</p>
-----	---

つづく

つづき

外装下地 材	仕様：単張 材料：①又は② ①せっこうボード(JIS A 6901) ②強化せっこうボード(JIS A 6901) 厚さ：15mm以上
-----------	---

4. 仕様の副構成材料：
仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項目	仕様
防水紙	料：①～③の一 ①アスファルトフェルト430(JIS A 6005) 単位質量の呼び：430以下 ②透湿防水シート(JIS A 6111) 材質：1)～3)の一、又は組合せ(積層したもの) 1)ポリエチレン 2)ポリエステル 3)ポリプロピレン 質量：430g/m ² 以下(1枚又は2枚の合計) ③アルミニウム蒸着透湿防水シート 材質：1)～3)の一、又は組合せ(積層したもの) 1)アルミニウムはく+ポリエチレン 2)アルミニウムはく+ポリエステル 3)アルミニウムはく+ポリプロピレン 質量：430g/m ² 以下(1枚又は2枚の合計)
通気胴縁	仕様：あり又はなし 材料：1)～6)の一 1)日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材、構造用集成材、造作用製材、又は下地用製材 2)日本農林規格に適合する構造用単板積層材又は造作用単板積層材 3)日本農林規格に適合する枠組壁工法構造用製材又は構造用たて継ぎ材 4)平成12年建設省告示1452号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材 5)日本農林規格に適合する合板 6)構造用MDF(JIS A 5905) 寸法：一般部；9×45mm以上 外装材鉛直目地部；9×45mm以上2本組、又は9×90mm以上 取付間隔：610mm以下

つづく

つづき

シーリング材	仕様：あり又はなし 材料：建築用シーリング材(JIS A 5758) 使用量：0.1g/m以上 使用箇所：外装材鉛直目地部及び外装材嵌合部
気密材	仕様：あり又はなし 材質：1)～7)の一、又は組み合わせ 1)ポリサルファイド系 2)変性シリコン系 3)エチレン・酢酸ビニル系 4)EPDM系 5)塩化ビニル系 6)熱可塑性エラストマー系 7)合成ゴム系 質量：0.1g/m以上
接着剤	仕様：あり又はなし 材質：ホットメルト系 質量：4.2(+0.4)g/m以下
目地処理材	材料：ポリエステル系繊維不織布張ガラスウール板 寸法：幅60mm以上 厚さ：5mm以上 配置：胴縁に直行する外装下地材目地部
役物	構成：①及び② ①目地受け 厚さ：0.27mm以上 ②目地カバー 厚さ：0.35mm以上 材料：外装材①表面材と同じ
留付材	外装材固定用： 材料：ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4.0×長さ30mm以上 留付間隔：水平方向610mm以下、鉛直方向385mm以下
	通気胴縁固定用(通気胴縁を用いる場合)： 材料：ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4.0×長さ40mm以上 留付間隔：1000mm以下

つづく

つづき

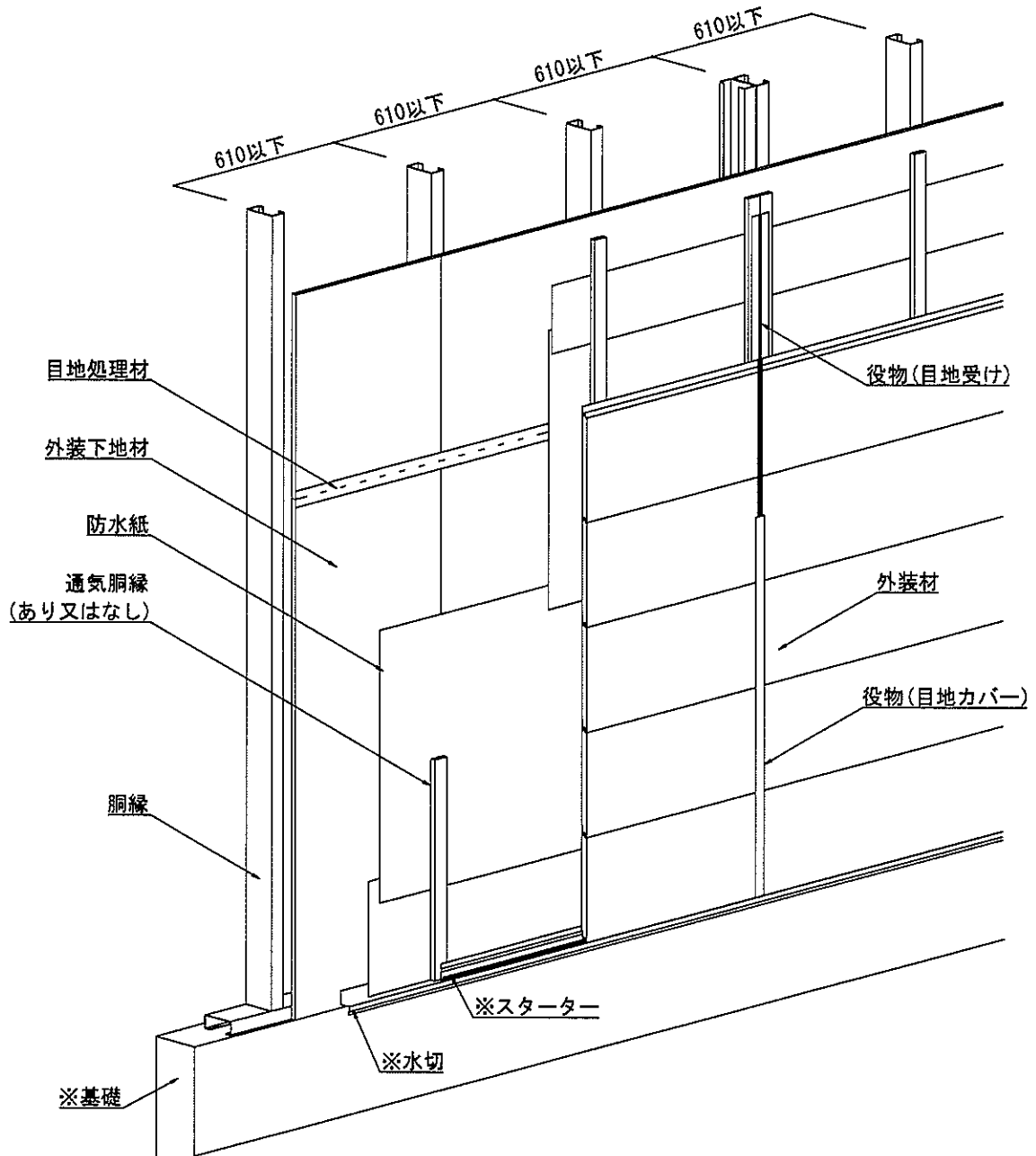
留付材	<p>外装下地材固定用： 材料：①又は② ①スクリークぎ 寸法：胴部径φ2.3×長さ32mm以上 ②ねじ 寸法：呼び径φ3.5×長さ25mm以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：水平方向610mm以下 鉛直方向455mm以下</p>
	<p>役物固定用： 材料：ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4.0×長さ30mm以上 留付間隔：1000mm以下</p>
	<p>目地処理材固定用： 材料：ステーブル 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：肩幅10mm以上×足長さ10mm以上 留付間隔：長さ方向500mm以下 幅方向両端部より10mm</p>
	<p>防水紙固定用： 材料：①～⑥の一 ①ブチルテープ ②アクリルテープ ③アルミテープ ①～③の厚さ：1mm以下 ①～③の幅：105×200mm以下 ④ステーブル 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：肩幅10mm以上×足長さ6mm以上 ⑤スプレーのり 材質：スチレンブタジエンゴム 塗布量：5g/m²以下 ⑥ねじ 寸法：呼び径φ3×長さ5mm以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：水平方向3050mm以下、鉛直方向1000mm以下</p>

5. 仕様の構造説明図：

仕様の構造説明図を図1～図5に示す。

図中の単位については、特記のない限りmmとする。

単位(mm)



※評価対象外

透視図
図1 構造説明図
(胴縁が軽量形鋼の場合)

単位(mm)

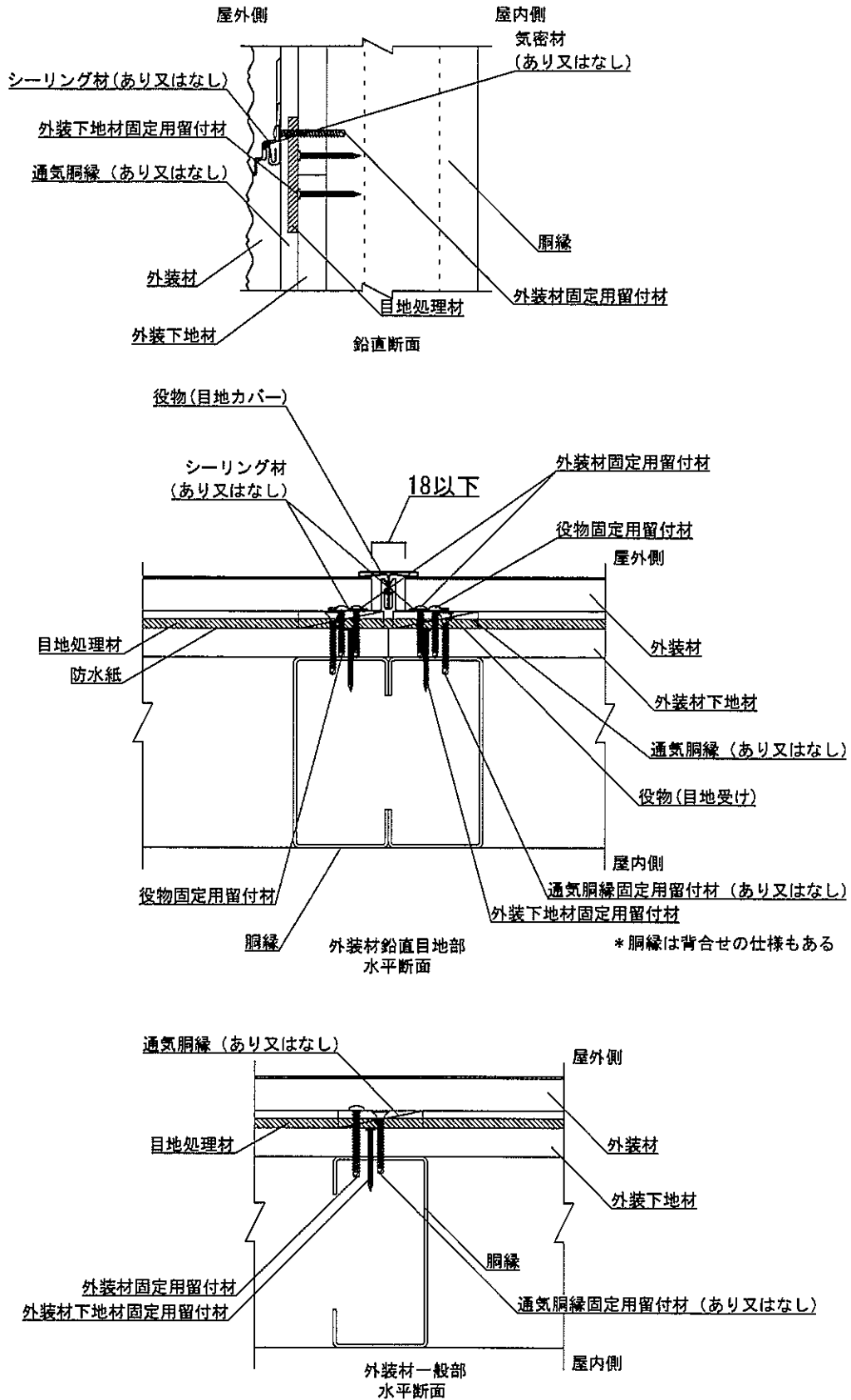
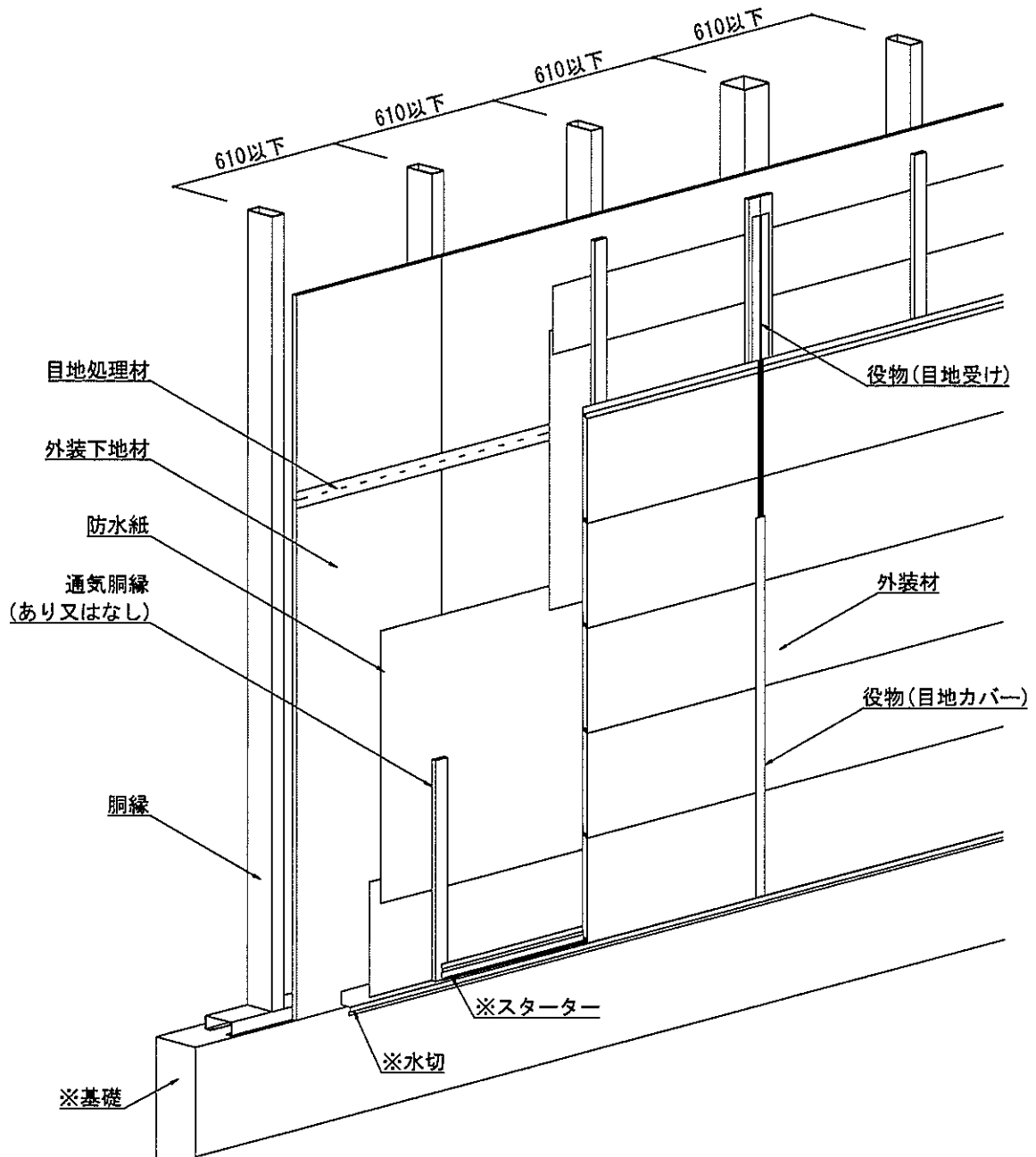


図2 構造説明図
(胴縁が軽量形鋼の場合)

単位 (mm)



※評価対象外

透視図
図3 構造説明図
(胴縁が一般構造用角形鋼管の場合)

単位 (mm)

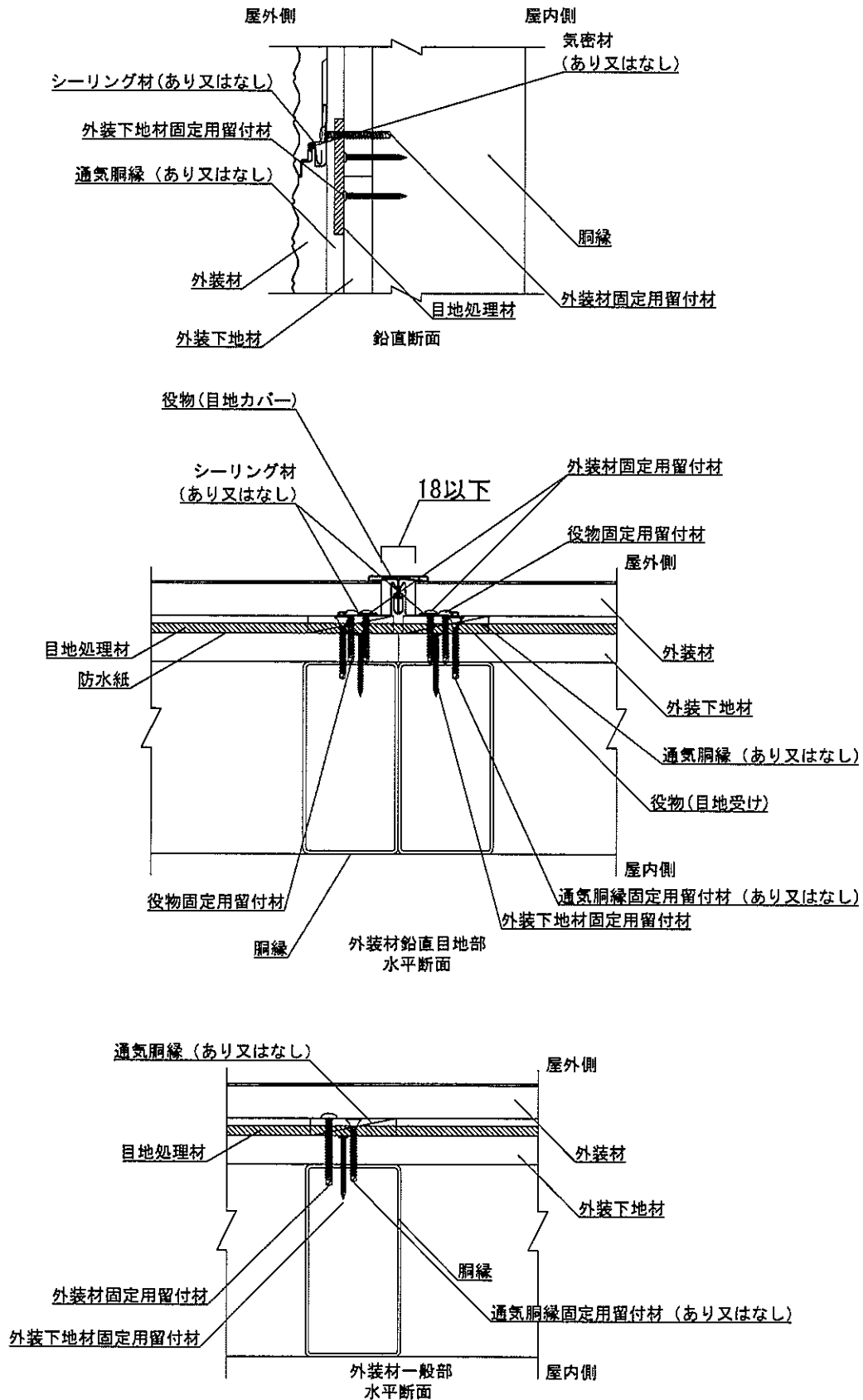
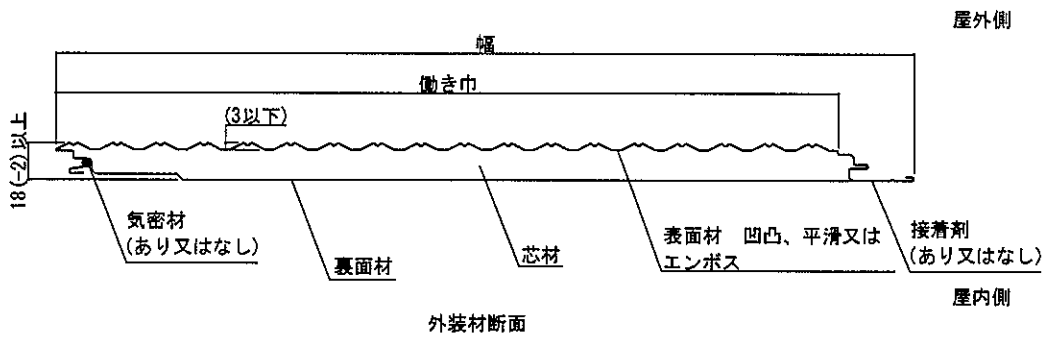


図4 構造説明図
(胴縁が一般構造用角形鋼管の場合)

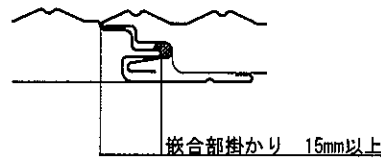
単位 (mm)



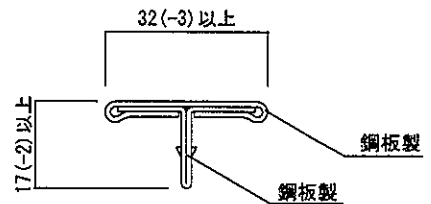
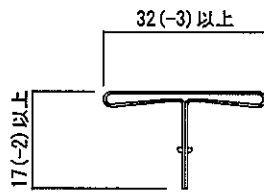
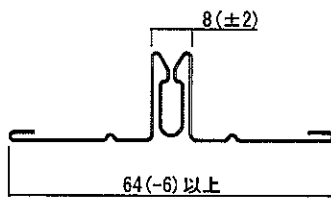
※断面欠損率 (%) : 8.7%以下 (厚さ18での比)

働き幅内の断面欠損率

断面欠損率 (%) = 柄欠損 / (18 × 働き幅) × 100



嵌合部詳細



役物断面

※公差記入なき箇所の許容差は±10%とする

図 5 構造説明図

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

1) 胴縁の取り付け

胴縁は、610mm 以下の間隔で平滑に取り付ける。

取り付け方法は金物やボルト、溶接を用いた方法とする。

2) 外装下地材の取り付け

外装下地材は外装下地材固定用留付材を用いて胴縁に留付ける。

3) 目地処理材の取り付け(外装下地材単張り時)

胴縁に直行する外装下地材の目地部には目地処理材を目地処理材固定用留付材を用いて留付ける。

また、必要に応じて胴縁に平行する目地部にも目地処理材を留付けても良い。

4) 防水紙の張付け

防水紙は横張りを原則とし、重ね代を 90mm 以上、左右 150mm 以上とし、防水紙固定用留付材を用いて外装下地材の表面に仮止めする。なお、張付ける際にはたるみ、しわのないように張付ける。

5) 通気胴縁の取り付け

必要に応じて通気胴縁を取り付ける。通気胴縁は、610mm 以下の間隔で通気胴縁固定用留付材を用いて留付ける。

6) スターターの取り付け(評価対象外)

スターターを胴縁に役物固定用留付材で、水平に取り付ける。

7) 外装材の取り付け

- ・一枚目の外装材のメス部をスターターに落とし込み、オス部を胴縁に外装材固定用留付材で留付ける。二枚目の外装材のメス部を一枚目のオス部に差し込み、オス部を胴縁に外装材固定用留付材で留付ける。その際、必要に応じて外装材の嵌合部にシーリング材を充てんする。
- ・外装材鉛直目地部は、役物(目地受け)を外装材鉛直目地部となる胴縁に、役物固定用留付材で固定した後、その上に外装材を外装材固定用留付材で留付ける。外装材を張り終えたら目地受けの差し込み溝に役物(目地カバー)を差し込む。必要に応じて役物同士の間や外装材と役物との間にシーリング材を施工する。
- ・必要に応じて、不陸調整用にスペーサー(カットした目地処理材)を使用してもよい。